

将来に向けて共に踏み出す

日本国首相 岸田文雄

2024年7月15日

太平洋島嶼国・諸島地域と日本は、これまでキズナ（絆）である太平洋で結ばれた、かけがえのないパートナーでした。そして、それは今後も変わることはありません。

太平洋島嶼国と日本の友好の輪は、スポーツを始めとするさまざまな分野で、あるいは自治体レベルでの交流を通じて広がってきました。

日本人の食文化を豊かにしてきたのは、太平洋島嶼国近海で獲れるマグロやカツオのおかげです。気候変動や防災など共通の課題に対しても長年にわたり、太平洋島嶼国と日本は、協力して取り組んでいます。



青年海外協力隊員は、外交関係が樹立される前から、地域社会とともに各国の発展に尽力してきました。私は太平洋島嶼国の首脳陣から、協力隊員の貢献に関する心温まる話を直接お聞きし、とても誇りに思っています。

太平洋・島サミットが始まったのは20世紀に遡ります。私は10年以上にわたり、PALMプロセスに関わり、外務大臣として出席した2013年の第2回中間閣僚会合では、太平洋島嶼国と日本が着実に対話と協力を深めている実績を取り上げ、相互協力の重要性を強調しました。これは、私たちが誇りを持って育み、今日まで受け継いできた精神です。

第1回 PALM から 27 年が経ち、太平洋諸島フォーラム (PIF) の首脳が承認した「ブルーパシフィック大陸のための 2050 年戦略」の目標年である 2050 年は、今年から数えて 27 年後となります。約 30 年にわたる PALM プロセスの歴史に裏打ちされた絆と共通の価値観、理念に基づき、変化する状況に適応しながら、次の 30 年に向けて、揺るぎない信頼と友好の強固な関係を引き継いでいきます。

日本は、2050 年に向けて、太平洋島嶼国・諸島地域と共に歩み続けてまいります。